

国立国語研究所学術情報リポジトリ

韓国ソウルにおける「漢文訓読研究会」の活動（2006年6月～）について

著者	呉 美寧
雑誌名	訓点資料の構造化記述 成果報告書
ページ	143-150
発行年	2013-03-29
シリーズ	国立国語研究所共同研究報告 ； 12-08
URL	http://doi.org/10.15084/00002654

韓国ソウルにおける 「漢文訓読研究会」の活動(2006年6月～)について

呉 美寧

概要

漢文訓読研究会は、漢籍や仏典など東洋の古典に対して、主に日本の訓点資料を中心テキストとして、口訣資料および諺解などの韓国の国語史資料との比較講読を行なう研究会である。2006年6月から始まり、2012年12月をもって6年半となる。この会は日本と韓国の漢文訓読資料、両方の解読ができる研究者を養成し、東アジア漢文訓読研究に寄与できることを目標として出発した。中心となった人物である呉美寧は、北海道大学大学院文学研究科で『日本における論語訓読の研究』という論文で博士学位を取得し、2001年帰国し、2003年3月に崇實大学校日語日本学科に赴任した。日本の訓点語学会や韓国の口訣学会を中心に、日韓の漢文訓読研究に携わっている。当初は韓国の国語学者一特に口訣学会の同年代の若い研究者一や日本語学の研究者、そして大学院生を対象に、日本の漢文訓読の基礎を教えることから始まった。最初のテキストは『論語』の訓点本、参加人数は10人程度の規模であった。その後、毎週土曜日に研究会を行なっており、現在21人のメンバーが参加している。『論語』の二回通読を終えた時点で、メンバー全員は日本の漢文訓読の基礎を積み、日本語の実力もついていった。その後、『小学』、『六祖法宝壇経』、『華嚴経』、『法華経』を勉強し、一部のメンバーは『訓点新約聖書』、『白氏文集』も講読した。また夏と冬休みを利用して開かれる特別講読会では『日本書紀』、『捷解新語』、『全一道人』などを扱ってきた。2012年12月現在、相変わらず毎週土曜日に集まって、論語の三回目の講読を行なうとともにその漢文訓読文の作成と公開を目指して励んでいる。なお当初の研究者養成という目標に加わって、専門研究者以外のメンバーであっても古典の講読を通して人生の知恵を得たいと思う人にも参加してもらい、人文学の底辺を拡大することにも心掛けていきたい方針である。

1 研究会誕生の背景

2000年秋、韓国の国語学界において一大事が起こった。それは、小林芳規先生らによる点吐口訣資料の発見である。高麗中期以後の字吐積読口訣資料は70年代から発見され研究されてきたが、より古い時期の積読口訣資料、しかも日本のヲコト点のようなものが加

点された資料ははじめて発見されたのである。この資料の発見によって、11～12 世紀の韓半島において、漢文の釈読、つまり漢文訓読が行なわれていたことが証明された。

これを期に、日本の漢文訓読研究に関する関心が高まった。日本の訓点資料に関する興味は勿論のこと、漢文訓読研究史や研究方法についても高い関心が注がれた。

そこで 2001 年 8 月の国際ワークショップ「漢文古版本とその受容(訓読)」(北海道大学、石塚晴通教授主催)を起点として、漢文訓読に関する数多くの国際会議が開催された。なお、日本富山大学の小助川貞次教授の日本文部科学省科学研究費の支援による韓国人研究者の日本資料調査(2005 年～2006 年、4 回にかけて 12 人参加)が行なわれ、直接日本の訓点資料に接する機会によって日本の漢文訓読に対する関心がより高まり、日本と韓国の漢文訓読研究分野においては活発な交流が行なわれていた。

2 漢文訓読研究会の出発

日本訓点資料調査を通じて、韓国の口訣研究者は、日本の古文献、とりわけ訓点資料に関する理解を深め、日本や韓国、ひいては東アジアを視野に入れた研究の必要性を実感するようになった。また日本の漢文訓読研究の蓄積を、韓国の口訣資料研究に活用するためにも、日本の訓点資料に関する基礎的な訓練や学習の必要性を痛感したのである。

2001 年北海道大学大学院文学研究科において『日本における論語訓読史の研究』で博士学位(指導教官石塚晴通教授)を取得し帰国していた拙者は、上記の背景のもとで口訣学界の若手研究者を中心に日本の訓点資料の講読会を開くことを志し、2006 年上半期、口訣学会の若手研究者 5 人(金星周(当時ソウル大学校奎章閣韓国学研究院専任研究員)、朴鎮浩(当時漢陽大学校専任講師)、李勇(当時ソウル市立大学校非常勤講師)、張景俊(当時ソウル女子大学校助教授)、黄善燁(当時誠信女子大学校専任講師))にこの旨を伝え、研究会発足と参加を呼びかける。また、日本語研究者である韓世真(当時崇實大学校非常勤講師)、劉相溶(当時崇實大学校非常勤講師)にも話をかけ、また崇實大学校日語日本学科の院生も参加させ、2006 年 6 月 26 日、論語訓点本をもって最初の勉強会を始める。

3 漢文訓読研究会の目標

当初漢文訓読研究会は、下記の点を目指していた。

第一、日本の訓点資料に関する知識を深める。

第二、日本の訓点資料と韓国の資料の比較学習によって、両国の資料に関する理解をより深める。

第三、両国の資料をともに扱える研究者の育成。特に大学院生、いわゆる「学問後続世代」を積極的に養成する。

第四、以上をもって両国の漢文訓読研究の発展に寄与する。

4 メンバー

当初のメンバーは先に紹介した通りである。その後、新しく加わったり、事情によって研究会に出られなくなったりもしたが、初開催以来6年半となる2012年12月現在、21人のメンバーが毎週土曜日研究会を行なっている。（*で示した人は、現在事情により、一時休んでいるメンバーである。）

名前	専門	所属(当時→現在)	勉強したテキスト	参加し始めた時期
呉美寧	日本語史 (漢文訓読)	崇實大学校副教授	論語・小学・日本書紀・六祖壇経・華嚴経・法華経	2006年6月
韓世眞	日本語史 (中世文法)	崇實大学校非常勤講師	論語・小学・日本書紀・六祖壇経・華嚴経・法華経	2006年6月
朴鎮浩	韓国語学	漢陽大学校専任講師→ソウル大学校副教授	論語・小学・日本書紀・六祖壇経・華嚴経・法華経	2006年6月
金星周*	韓国語学	ソウル大学校奎章閣韓国学研究院専任研究員→東国大学校国文科大学院講義教授	論語・小学	2006年6月
張景俊*	韓国語学	ソウル女子大学校助教授→高麗大学校助教授	論語・六祖壇経・華嚴経	2006年6月
李 勇*	韓国語学	ソウル市立大学校非常勤講師→リュブリャナ大学(スロベニア)	論語・日本書紀	2006年6月
黃善燁*	韓国語学	誠信女子大学校助教授→ソウル大学校副教授	論語	2006年6月
劉相溶*	日本語史 (中世文法)	檀國大学校非常勤講師→蔚山大学校副教授	論語	2006年6月
鄭炫赫*	日本語史 (キリシタン資料)	韓国外語大学校非常勤講師→韓国サイバー外大副教授	論語・小学	2007年3月
金智善*	日本語教育	梨花女子大学校非常勤講師→梨花女子大学校教養学部助教授	論語・小学	2008年3月

金紋廷	日本語学	崇實大学校大学院修士課程	論語・小学・六祖壇經	2006 年 6 月
李政範	日本語学	崇實大学校大学院修士課程→(株)Daum Communications	論語・小学・日本書紀・六祖壇經・華嚴經・法華經	2006 年 6 月
申雄哲	日本語学	崇實大学校学部生 →同大学院修士卒業 →北海道大学博士課程	論語・小学・日本書紀・六祖壇經・華嚴經・法華經	2006 年 10 月
金志悟*	韓国語学	東国大学校国語国文学科博士課程→同大学校講義教授	論語・小学・六祖壇經	2007 年 1 月
李丙雲*	日本語学	崇實大学校学部生→(株)LG	論語	2007 年 3 月
金美希*	韓国語学	漢陽大学校学部生→同大学院博士課程	論語・小学・日本書紀・六祖壇經	2007 年 4 月
文玄洙	韓国語学	高麗大学校大学院修士課程→同大学院博士課程	論語・小学・六祖壇經・華嚴經・法華經	2009 年 3 月
朴夏閔	日本語学	崇實大学校大学院修士課程卒業→同大学日語日本学科助教	論語・小学・六祖壇經・華嚴經・法華經	2009 年 7 月
許仁寧	韓国語学	高麗大学校学部生 →同大学院修士課程	論語・小学・六祖壇經・華嚴經・法華經	2010 年 4 月
河崎啓剛	韓国語学	ソウル大学校博士課程 →崇實大学校学部助教	論語・小学・六祖壇經・華嚴經・法華經	2010 年 6 月
金美美	韓国語学	高麗大学校修士課程 →同大学院博士課程	論語・六祖壇經・法華經	2011 年 7 月
金静姪	日本文学	崇實大学校日語日本学科大学院博士課程	六祖壇經・法華經・論語	2011 年 11 月
鄭門鎬	日本語学	崇實大学校学部生（4 年生）	法華經・論語	2012 年 6 月
金賢敬	日本語学	崇實大学校学部生（3 年生）	法華經・論語	2012 年 6 月
吳慶媛	比較言語学	ハワイ大学博士課程	法華經・論語	2012 年 7 月
朴贊雄	日本語学	崇實大学校学部生（1 年生）	法華經・論語	2012 年 7 月
朴炫宣	日本語学	崇實大学校学部生（1 年生）	法華經・論語	2012 年 7 月
朴賢正 (日本語史)	日本語学	崇實大学校非常勤講師	法華經・論語	2012 年 9 月

文彰鶴	日本語学 (現代文法)	崇實大学校非常勤講師	法華経・論語	2012 年 9 月
孫範基	日本語学 (現代音韻)	崇實大学校非常勤講師	法華経・論語	2012 年 9 月
李廷玉	日本語学 (現代文法)	崇實大学校非常勤講師	法華経・論語	2012 年 9 月

なお、小助川貞次教授(富山大学)、高田智和(国立国語研究所)の二方は日本の協力会員で、物心ともども漢文訓読研究会を声援していただいている。



<研究会の様子 1:2007. 02. >

5 今まで勉強した資料

漢文訓読研究会では、日本の訓点資料を中心に講読する。ただなるべく韓国の資料の中でも諺解など同文献を扱った資料があるものを選ぶように努めた。両国の資料を比較して読んでいく形式で勉強し、必要な場合は漢文訓読文の作成を行なった。

正規の研究会は、原則的に毎週土曜日崇實大学校で朝 9 時 30 分から 4 時 30 分まで行なう。今まで勉強してきた資料をあげると下記のとおりである。

<論語>

日：清原家系統本『論語集解』東洋文庫蔵永正本、正平版無跋本

東洋文庫蔵『論語義疏』

応永 27 年本論語抄、古活字版論語抄

韓：校正庁本『論語諺解』、李栗谷『論語諺解』

→正平版無跋本をもって漢文訓読文を作成し、現代日本語訳と現代韓国語訳をつける作業。

<小学>

日：内閣文庫所蔵享保 19 年刊『小学句読』(昌 4/398/217)

中村惕齋講述『小学示蒙句解』(漢籍国字解全書第七)

韓：『翻訳小学』(1518 年)

『小学諺解』(1587 年)

『御製小学諺解』(1744 年)

<六祖法宝壇經>

日：曹溪原本(江戸版本。六祖壇經諸本集成所収)

東大言語研究室蔵『六祖法宝壇經抄』

韓：高麗伝本(六祖壇經諸本集成所収)

『六祖法宝壇經諺解』(1496 年)

<華嚴經>

日：京都国立博物館蔵『旧訳華嚴經卷 53』(B 甲 86. 朱点+白点)

法蔵『華嚴經探玄記』

* 国訳大蔵經

東国大学校訳經院の韓国語訳

<法華經>

日：『心空版倭点法華經』(1398 年重刊本)

『足利本仮名書き法華經』(1330 年奥書)

韓：『法華經諺解』(1463 年)

夏休みや冬休みには平日に一日を決めて特別研究会を行なう。この時は、漢文資料でないものを主に扱った。特別研究会で勉強した資料は下記のようなものである。

・『訓点聖書』(1879 年)

- ・『日本書紀』
- ・『全一道人』
- ・『捷解新語』

その他、翻訳や基礎勉強のために扱ったものを紹介すると以下のとおりである。

- ・諸橋轍次『論語人物考』（春陽堂、1937）
- ・金文京『漢文と東アジア』（岩波書店、2010）
- ・鎌田茂雄『華嚴の思想』（講談社、1988）
- ・木村清孝『中国華嚴思想史研究』（平楽寺書店、1997）

6 資料調査

漢文訓読研究会では、2009 年度夏から夏休みと冬休みを利用して日本現地での資料調査を行なっている。2011 年以後の資料調査は小助川貞次教授(富山大学)の科学研究費のご支援で行なわれている。

- ・2009 年 7 月 内閣文庫小学訓点本調査＋東洋文庫論語訓点本調査：
呉美寧、申雄哲、文玄洙
- ・2010 年 1 月 東洋文庫論語と毛詩訓点本調査：
呉美寧、申雄哲
- ・2011 年 7 月 京都博物館華嚴經調査：
呉美寧、朴鎮浩、申雄哲、文玄洙、許仁寧
- ・2012 年 2 月 京都博物館華嚴經調査：
呉美寧、朴鎮浩、韓世眞、申雄哲、文玄洙、許仁寧
- ・2012 年 7 月 京都博物館華嚴經調査：
呉美寧、朴鎮浩、朴夏閭、申雄哲、文玄洙、許仁寧、金賢敬
- ・2013 年 1 月 京都博物館華嚴經調査(予定)：
呉美寧、朴鎮浩、李政範、申雄哲、文玄洙、許仁寧、鄭門鎬、金賢敬



＜資料調査の様子：2011. 07.＞

7 今後の方向

研究会の出発当初、口訣学会の参加者は、日本の漢文訓読はもちろんのこと、日本語能力もほとんどなかったが、現在一部のメンバーは両方において相当な知識を獲得している。合流した大学院生は、日本語能力を備えていたので、専門書の学習や翻訳をも目指すことが可能となった。以上から日本現地で資料調査も可能となり、新しい資料の研究に取り組むことも可能である。

これからは引き続き、韓国の口訣資料と日本の訓点資料両方についての知識を有する研究者を積極的に養成することが漢文訓読研究会の第一の目標である。さらに専門の研究者ではないが、漢文文献及び漢文訓読に興味を持って参加しているメンバーを中心として人文学の底辺を拡大していくことも研究会の大事な任務である。この二点を調和させながら引き続き勉強していくことを心掛けている。